

第6号様式（第5の2関係）

議 事 概 要

会 議 名	令和7年度第3回鹿屋警察署協議会
会 議 日 時	令和8年2月13日（金曜日）午後3時から午後4時45分
会 議 場 所	鹿屋警察署
出 席 者	1 警察署協議会 会長以下11人 2 警察署 署長以下12人
<p>（会議の概要）</p> <p>1 会議次第</p> <p>(1) 会長挨拶</p> <p>(2) 署長挨拶</p> <p>(3) 協議</p> <p>2 警察署運営状況等の説明 令和7年中における管内の治安情勢と署の取組状況</p> <p>3 委員からの意見・要望等</p> <p>【委員】 メディアとの連携が薄いように感じている。例えば記者クラブの記者の顔と名前が一致する警察官があまりいないのではないかと。情報の開示の仕方等も話す機会があってもいいのではないかと。</p> <p>【回答】 警察では所属ごとに広報担当者が決められており、当署では副署長が広報担当者として一本化されている。広報担当者が一本化されている理由は、マスコミの取材に対して責任を明確にし、発表内容に正確を期すため、また、住民の方に正確な情報を提供するために行っているものである。以上の理由から、他の警察官が記者クラブの方々と殆ど接する機会がなく、連携が薄いと感じられるのかと思う。なお、県警察では、日頃の警察活動への一層の理解と協力を得られるよう、県警ホームページや交番・駐在所のミニ広報紙等の媒体を活用し、様々な現場で活躍する警察職員の姿を積極的に情報発信している。</p> <p>【委員】 警察署協議会の人数を減らすなどはないのか。今の人数の根拠等はあるのか。</p> <p>【回答】 警察署協議会の委員定数は、鹿児島県警察署協議会に関する規則第2条で各署の委員の定数が規定されている。したがって同規則の定数見直しはなされない限り、定数の変更はないものと思われる。</p> <p>【委員】 警察官はとても多忙なように外から見て思う。なぜそのようになっているのか。昔と比べてデジタルも使用しているのに、昔の警察官には余裕があったように感じる。</p> <p>【回答】 警察では、県民の生活様式の多様化、特殊詐欺、窃盗など身近な市民生活を脅かす犯罪を始めとする各種事件の対応や交通事故、各種相談、交通指導取締り、許認可業務、パトロールの実施など、県民の安全・安心を確保するため、多種多様の業務運営を行っている。デジタル化社会の進展に伴い世の中が便利になった分、それに伴う新たな犯罪や相談が増加し、刑法犯認知件数は、コロナ禍以降の人流増加も相まって増加傾向にあり、警察官1人当たりの業務負担は年々増加している状況にある。県警察では、業務の合理化・効率化などによりワークライフバランスを推し進め、職員の心と身体に負担の少ないメリハリのある職務執行を推進している。</p>	

【委員】

通勤時間帯など、西日がまぶしく、それによる事故が発生しているが、このところ森林の伐採等で日の当たり具合が変化しているように感じる。注意喚起を促す対策はないか。

【回答】

西日による幻惑事故を防止するには、サンバイザーやサングラスを活用する方法が効果的であるが、偶発的に西日がまぶしい場所を通りかかった場合、対応できずに幻惑事故が発生してしまうおそれがある。

よって、西日がまぶしい場所等、地域の実情に応じた交通事故が発生するおそれがある危険箇所について住民の方と情報共有し、事前に注意喚起することができれば、住民の方の交通安全に対する意識が高まり、その場に応じた行動を運転手が取ることで、交通事故抑止に繋がるものと思われる。

当署としては、交通安全講話、巡回連絡及び交通指導取締りなど、あらゆる警察活動を通じて交通事故抑止のための注意喚起に努める。

【委員】

クリーニング店前の坂を登り切ったところの交差点は交通事故が多い。

町の人の話では、特に他県ナンバーが多いが優先順位がわかりにくく飛び出してしまうことがあるようだ。

それぞれ赤色と黄色の点滅信号が設置されているが、きちんと一旦停止をせず、飛び出してくる車が多いのが現状となっている。

小さな交差点ではあるが、国道と県道の交差道路であり、初めての人でも分かりやすいよう、一旦停止を大きく標示してもらいたい。

【回答】

当交差点における令和5年1月から本年1月までの交通事故の発生件数は、物件事故9件、人身事故1件の合計10件となっている。

そのうち、令和5年に発生した軽傷人身事故と令和8年に発生した物件事故が、他県の方が当事者となる交通事故であった。

当交差点は、令和6年9月に道路管理者、関係機関・団体、地元住民及び警察本部とともに「交通事故多発地点合同現場診断」を実施しており、道路管理者により当時不明瞭であった道路標示等の補修を行い、以降、交通事故発生件数は減少傾向にあることから、一定の効果を得ているものと思われる。

先日、現場確認を行ったところ、現在のところ「止まれ」などの道路標示は鮮明であったが、今後も継続的に現状確認を行い、道路管理者等と連携して対応する。

また、「一旦停止を大きく」という件については、住民の方からの意見として、道路管理者へ情報共有する。

【委員】

不法投棄をよく見かけるが、警察としては何か対策をとっているのか。

【回答】

当署では、不法投棄事案等につき、

令和6年 5件（不法焼却5件）

令和7年 2件（不法投棄1件、不法焼却1件）

を事件処理している。

事件検挙に至らない場合でも、行為者への指導警告を実施し再発防止に努めている。

不法投棄の根絶を目指し、大隅地域振興局や鹿屋市役所など環境行政部局と連携して合同パトロール等の監視強化を行っている。

また例年、肝属川クリーン作戦に参加し、ゴミ拾い等を関係機関と行っている。

警察では、住民の皆様の情報をもとに捜査を開始するとともに、現場において廃棄物の確認・鑑識作業等を行い、投棄者を特定するとともに、関係機関への情報提供を行っている。

不法投棄を見かけた際は、警察署又は県・市への通報をお願いする。

【委員】

鹿屋警察署では職場体験の取組はどのようにしているか。

他県警での職場体験学習の様子をテレビで見た。生徒が薬物の家宅搜索を体験するというものであったが、体験した生徒からは「警察官の仕事が分かって良かった」というような感想を言っていた。

中・高校生の職場体験学習も警察官の採用にもつながると感じた。

【回答】

県警察の取組として、県警察学校に高校生等を招いてオープンキャンパスを開催し、鑑識作業、似顔絵、点検教練、白バイ訓練等の職場体験等を実施している。

また当署では、各種イベントにおいて、子どもたちに鑑識作業を体験してもらったり、白バイ、パトカーの乗車体験や制服の試着体験などを行っている。

更に、管内の小中学校から出前授業の要請があれば、警察資機材の展示、説明やパトカ

一の乗車体験、質問コーナーなど、警察に興味を持ってもらえる活動を行ったり、管内の高校出身者の警察官にリクルーターとして母校で警察官としての経験談を講話するなど、少しでも採用につながるようあらゆる活動を展開している。

【委員】

実際に特殊詐欺の被害に遭った方々の思いや、こういうことをしたら被害に遭わなかったかというような意見等の記事を自治会の回覧板で回ってくる「駐在所だより」等に載せたら切実さが伝わって読む人の頭にも残るのではないかと思う。

【回答】

委員からの御意見のとおり、特殊詐欺の被害に遭う方が後を絶たない状況であることを考え、より具体的な事例を広報紙に記載するなど、効果的な広報活動に努めていく。

【委員】

駐在所の警察官が長年にわたり、地域行事や小学校行事、清掃活動、伝統行事などに積極的に参加し、地域住民との信頼関係を築いてきたことに地域住民として深く感謝している。

これらの取組によって住民が相談しやすい環境づくりが自然に形成され、防犯、安心安全の面において大きな役割を果たしている。

これらの地域行事等への参加が、業務としての対応なのか、または休日等の私的時間を割いての対応なのか制度上の位置づけを教えてもらいたい。

業務外の対応となる場合には、地域との連携活動として適切な評価や配慮がなされ、勤務調整や休養の確保が図れる体制づくりの検討をお願いしたい。

【回答】

地域行事等への参加は、基本的には業務対応となっている。

地域警察の活動基準についての通達に基づき「ふれあい活動」の一環として業務として対応している。

評価についても、ふれあい活動の実施結果報告により、その活動を評価している。

また執務時間外の対応については、超過勤務での対応や、勤務時間の振替、休暇の振替などで対応し、休養などが確保できるようにしている。

4 諮問・答申

【諮問】

警察官採用試験は、受験者が右肩下がりに減少し、10年前の3分の1程度にまで減少している現状である。

県警察では、

- ・ 県警ホームページの充実
- ・ SNSの活用
- ・ 県警察学校におけるオープンキャンパスの実施
- ・ リクルーターによる母校訪問
- ・ ミニ広報紙、ポスター、ビラ等の活用
- ・ 各種イベントにおける広報活動

等を実施して募集活動を展開するなどあらゆる対策を講じているところであるが、受験者が減少し続けていることから、募集活動について意見、アドバイス、アイデア等がないか御意見をいただきたい。

【答申等】

- ・ 飲酒運転の疑似体験や白バイ乗車体験等の市民参加型のイベントの開催
- ・ 立哨等で警察官の姿を多く見せる。
- ・ 小学生等にパトカー、白バイに乗車体験をさせたり、白バイがジグザク走行など訓練している姿を見せるなどして関心を持ってもらう。
- ・ 鑑識作業や絵に興味のある人などは似顔絵等も経験させてみてはどうか。
- ・ 少子化で今どの業種も人材不足が課題となっている。イベント等開催して警察の仕事の面白さを体験してもらう。
- ・ 拝命してから様々な職種があること、選択肢が多くあることをアピールする。
- ・ 地域住民と接する機会を増やし、警察官が身近な存在に感じてもらう。
- ・ SNS等で警察の取組を掲載する。
- ・ 子供達にとって将来の職業候補にあがるのが大事だと思うので、警察がもっと身近な存在に感じてもらうよう思い出に残るような取組を増やす。
- ・ 自衛隊のPRがすごいと感じている。警察官のポスターは少ないと感じるのでもっと増やせばどうか。
- ・ 中学校では職場体験学習があるが、警察は業務の特殊性から難しいとは思いますが、このような取組も職種を選ぶ理由になると思うので、対応できればよいのではないか。
- ・ 警察音楽隊等自分の能力を発揮できる部署もあるのでパンフレットに掲載してみてもどうか。
- ・ 離島勤務をしたくない者もいると思うので、給料や採用パターン等を検討してみても

はどうか。

- ・ 警察のカレンダーは警察犬や機動隊の訓練、逮捕術大会など関心の高いものがある
ので小学校等の目立つ場所に掲示してみてもどうか。
- ・ 募集広報の工夫
 - 仕事内容の可視化～危険な場面だけでなく、地域支援、IT犯罪捜査、災害対応
など多様な業務を具体的に発信する。
 - SNS、動画の活用～若年層向けに短尺動画、現役警察官の1日、キャリアなど
を紹介する。
 - 体験型イベント～職場見学、模擬捜査、火災、地震、事故等のVR訓練体験など
参加型広報。
- ・ 応募条件、選考の柔軟化
 - 職種別に年齢、身体条件を見直してはどうか。
 - 通年採用、複線型採用
新卒、既卒、社会人経験者、専門職を分けて採用したらどうか。
 - 選考プロセスの短縮、明確化
早期内定、オンライン試験を導入してはどうか。
- ・ 処遇、働き方の改善
 - ワークライフバランス
シフトの見える化、休暇取得率の公開をしてはどうか。
 - キャリアの多様性
専門職コース、留学、研修、民間派遣、復職制度を設けてはどうか。
 - 処遇の透明化
初任給、手当、昇進モデルを分かりやすく提示してはどうか。
- ・ ミスマッチ防止
 - リアルな情報提供
警察職員の厳しさや責任感の強さが求められるなど、正確な説明を実施する。
 - インターン、お試し期間の設定
お試し期間の設定で入職後の離脱を防ぐ
- ・ 中長期施策
 - 地域ヒーロー化ではなく、公共専門職として再定義
社会課題解決の担い手としての価値訴求を図る。
 - OB、家族のアンバサダー活用
口コミ、信頼の可視化を図ってってはどうか。

備 考	
-----	--